

# 管楽合奏は楽しい会？

No.40 "仏と独、伊そして日本"

2013年5月5日(日/祝)14時開演 深川江戸資料館小劇場

- |                          |   |
|--------------------------|---|
| モーツァルト (奥/1756~1791)     | 「セレナード第11番Kv.375」<br>(Ob) 楠原/一宮/ (Cl)兼氏/田中 (Fg)森川/辻 (Hn)市原/平本             |
| D.ノチェンティーニ (伊/1849~1924) | 交響曲「労働は全てに勝利する」<br>(Fl)岡添 (Ob)土屋/一宮 (Cl) 兼氏/中川 (Fg)辻/阿部 (Kfg)山田 (Hn)平本/松本 |
| ----- Intermission ----- |   |
| 有馬礼子 (日/1933~ )          | 「角山木管五重奏の為のアミューズメント」<br>(Fl)岡添 (Ob)土屋 (Cl)兼氏 (Fg)角山 (Hn)平本                |
| V.ダンディ (仏/1851~1931)     | 「シャンソンとダンス」<br>(Fl)信澤 (Ob)楠原 (Cl)景山/中川 (Fg)阿部/辻 (Hn)平本                    |
| E.ベルナル (仏/1843~1902)     | 「嬉遊曲(管楽十重奏)」<br>(Fl)信澤/岡添 (Ob)一宮/土屋 (Cl)景山/田中 (Fg)阿部/角山 (Hn)市原/平本         |

## 出演者の簡単なプロフィール(楽器別50音順)

(Cond & Fg)森川 一 (もりかわ はしめ)

法政大学在学中ファゴットを始め、菅原眸氏に師事。同校卒業後、東京藝大別科で三田平八郎氏に、その後元ハンブルク州立劇場奏者フリッツ・ヘンカー氏に師事する。フリーの奏者として活動し今日に至る。78年より毎年ソロ及び室内楽の演奏会を主催。その他オケのトレーナー、文筆など多岐に渡る活動を行う。「管楽合奏は楽しい会？」及び「フルスヴァルト合奏団」「森川室内楽」などを主宰、またリード製作者としても高い評価を得ており「森川ファゴット&リード倶楽部」を設立している。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人代表及び「法政ファゴットの会」同人

(Cond & Fl)岡添 隆(おかぞえ たかし)

京都大学音楽部交響楽団でフルート奏者、学生指揮者として活躍する。フルートを佐々木伸浩氏、持田洋氏に、フラウト・トラヴェルソを森本薫氏に師事。現在はアンサンブル・メゾン、東京アマデウス管弦楽団で演奏活動中。普段は某メーカーで化学の研究に携わる。「研究のアイデアは音楽で演奏する時のアイデアと共通するものがある」と主張し、部下達にあきられている。指揮もする才人。

(Fl)信澤達也(のぶさわ たつや)

高一のとき隣席の友人の勧めでフルートを始め、磯辺庄平氏に師事。東大管弦楽団を経て卒業後は東京アマデウス管弦楽団で活動し2009年より団長を務めている。鉄鋼系化学メーカーで永らく研究職を勤めたが、一昨年より特許関係の仕事に転じた。終日机に向かう仕事なので運動不足が気になる昨今である。

(Ob)一宮悠子(いちみや ゆうこ)

中学からオーボエを始める。高校時代には鈴木繁、大学時代より渡辺潤世の各氏に師事。卒業後に地元仙台で就職したのを機に 念願のアマチュアオケに入団。以降もレッスンの度に高崎へ、また声が掛れば喜んで上京し演奏活動をする日々を送っていたが、2012年の春より埼玉へ移住し週末の音楽活動を楽しんでいる。平日は医療専門職として勤務。

(Ob)楠原千佳子(くすはら ちかこ)

中学からオーボエを始め、藤原勲氏に師事。東京大学音楽部管弦楽団を経て、現在は東京アマデウス管弦楽団及びアンサンブル・メゾンに所属。大学～大学院を通して、コンクリート相手の研究で手がザラザラした時期もあったが、現在は少し手にやさしい社会人となった。

(Ob)土屋英晃(つちや ひであき)

東京都出身。14歳よりオーボエを始める。桐朋学園大学音楽学部、同卒業演奏会出演。同大研究科修了。第12回別府アルグリッチ音楽祭、ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン2011にオーケストラメンバーとして出演。2009年、市川市文化振興財団第22回新人演奏家コンクール管楽器部門で優秀賞を受け新人演奏会に出演するなど同財団主催の演奏会に多数出演。コンセール・ヴィヴァン第29回新人オーディション合格し優秀賞を得る。オーボエを藤村理子、宮本文昭、嶋崎耕三、浦丈彦の各氏に、また室内楽を白尾彰、岡本正之の各氏に師事。現在は洗足学園ニューフィルハーモニック管弦楽団及び洗足学園音楽大学演奏補助要員であり、Ensemble Le Creusetメンバー更に市川市文化振興財団フレッシュアーティストバンクに所属。

(Cl)景山賢嗣(かげやま けんじ)

東京大学音楽部管弦楽団を経て、現在は東京アマデウス管弦楽団、ダングダーク管弦楽団に所属。これまでにクラリネットを平林邦男、兼氏規雄の両氏に師事。平日は大手情報通信企業にてシステムエンジニアとして勤務している。某コンビニATMの取引中継オンライン システムを担当

(Cl)兼氏規雄(かねうじ のりお)

東京藝術大学附属高校を経て同大学卒業。ミュンヘン国立音楽大学留学。NHK洋楽オーディション合格。NHK「午後のリサイタル」等に出演。水戸芸術館「公募企画シリーズ」の第1回出演者に選出されリサイタルを開催。08年、東京オペラシティでのリサイタルについて、「音楽の友」誌上で絶賛される。水戸芸術館主催の「茨城の名手・名歌手たち」オーディション審査員、「茨城の演奏家による演奏企画」選考委員、茨城県の新人演奏会出演オーディション審査員、新人賞選考委員。また、日本クラシック音楽コンクールの全国大会木管楽器部門審査員も務める。現在、上野学園大学音楽学部、茨城大学教育学部、大東文化大学文学部講師、水戸ゾリステン代表。フルスヴァルト合奏団同人

(Cl)田中景子(たなか けいこ) 初参加!

小学4年でクラリネットを始め、佐々木麻衣子氏に師事。東京大学音楽部管弦楽団に入団し、6年ぶりにクラリネットを再開。平林邦男氏に師事。現在は東京アマデウス管弦楽団に所属。平日に楽器をさわられる大学院生の身分も残すところあと一年。

(Cl)中川知之(なかがわ ともゆき)

高校よりクラリネットを始め、千葉大学管弦楽団で演奏する。現在は、虎ノ門交響楽団に所属し、更に大学オケOBで結成した管楽合奏団「インセクツ」(音楽監督は菅原晔先生)でも演奏活動中。その音色にあこがれ、数年前に楽器をドイツ式に替えたのだが、その運指と音程に悩みつつ苦闘の日々を送っている。

(Fg)阿部寛一(あべ けんいち)

京都大学交響楽団で活躍する。ファゴットを日名弘見氏に師事。現在は東京アマデウス管弦楽団、アンサンブル・メゾンで演奏活動。令夫人はプロのヴァイオリン奏者、二人の令息はヴァイオリンとチェロを弾き、令嬢は藝大卒の声楽家と言う音楽一家の大黒柱。欧米、アジア各地へ海外出張の多い国際派ビジネスマンでもある。2010年5月の楽しい会?出演後アメリカに赴任し、2012年春に帰国後当会に復帰し、オケ活動も再開する。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人

(Fg)角山由美(かくやま よしみ)

法政二高では吹奏楽部、その後法政大学交響楽団で演奏、ジュネスにも出演する。大学卒業と同時に(社)日本音楽著作権協会(JASRAC)で音楽家の権利を護る仕事一筋に勤めてきたが、仕事から退いたのを機にファゴットの基本から取り組んでいきたいと、演奏する事への意欲は益々盛んである。加えてコントラファゴットの名手でもある。「管楽合奏は楽しい会?」ホームページの管理人。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人及び「法政ファゴットの会」同人

(Fg)辻 昭雄(つじ あきお)

法政二高、法政大学、同大学院と吹奏楽と交響楽団でファゴットを演奏。ファゴットを森川一氏に師事。現在は東京アマデウス管弦楽団及びフライハイト交響楽団に所属し、母校である法政二高で教鞭を採っている。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人及び「法政ファゴットの会」同人

(Fg)山田祐理(やまだ ゆうり)

法政二高では吹奏楽部、その後法政大学交響楽団、ジュネスでファゴットを演奏する。ファゴットを森川一氏に師事。同大学院工学研究科博士課程を経て博士号取得。現在は法政大学その他で講師を務めている。東京アマデウス管弦楽団で演奏するほか、エキストラとして多くのオケに出演。背にはコントラ、手にはファゴットを持ち東奔西走している。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人及び「法政ファゴットの会」同人

(Hn)市原秀紀(いちばら ひでき)

東京大学音楽部管弦楽団で活動し、その間故・伊藤泰世氏に師事。博士課程修了後何度かの転職をするなど紆余曲折を経て現在は電池材料の研究探索をしつつ週末ホルン奏者。脇屋俊介氏に師事しながら東京アマデウス管弦楽団を中心に活動。それ以外にも大編成のホルンアンサンブル"Strudel Hornisten"、木管アンサンブル"Particles"を主宰してみたりしている。

(Hn)平本 彩(ひらもと あや)

埼玉県出身。12歳よりホルンを始め、第五回全日本Jr.管打楽器コンクール小中学生の部で第三位を得る。桐朋学園大学音楽学部在学中には毎年各学年成績優秀者による学外演奏会に室内楽メンバーとして出演。2012年京都国際音楽学生フェスティバルのオーケストラメンバーに選抜生として、また2013年音楽大学フェスティバルにもオーケストラメンバーとして参加。卒業後同大学カレッジ・ディプロマコース一年に在籍中。現在はオーケストラや室内楽で演奏する他、吹奏楽の指導にもあたり活動の幅を広げている。これまでにホルンを根岸伊智郎、猶井正幸の各氏に、室内楽を佛坂咲千夫、猶井正幸、岡本正之、亀井良信、鈴木良昭の各氏に師事。

(Hn)松本和浩(まつもと かずひろ)

名古屋大学交響楽団で演奏し、卒業後同オーケストラOBが中心になって出来たアンサンブルユマニテにて、その後宇都宮シンフォニーオーケストラにおいて演奏活動する。転勤を機に当会に参加し、更に現在は目黒区民交響楽団でも演奏している。

管楽合奏はいわゆる吹奏楽(ブラスバンド)と混同されますが、まるで違うものです。後者には編曲以外ロマン派以前の曲は存在しません。とは言え、このジャンルで人口に膾炙している曲が多いとも言えません。しかしモーツァルトやベートーヴェンなどの定番以外にも、隠れた名曲佳曲が存在しています。問題は楽譜が余り出版されていない事です。理由を詳しく述べる紙幅はありませんが、間違っているであろう楽譜でも修正しながら舞台に載せていますので、見逃しがある事も否定出来ません。しかし、多少の間違いはあっても「良い曲」である事が分かれば成功と言えるし演奏する価値もあると考えております。

"管楽合奏は楽しい会?"は文字通り管楽合奏の楽しさを追求しています。またプロとアマが合奏をする事で、その間にあると思われる「最良の演奏」を狙う団体です。つまり「プロの技術で、アマチュアの心」を持った演奏が出来れば、これこそが「フィルハーモニー」だろうと考えるのです。そうした理想にどれだけ近付けるか、その判断は御来場の皆様にお任せ致しますが、最後までお楽しみ戴けたなら仕合わせに存じます。

宜しければ、感想などお聞かせ下さい。メールアドレスは [heckelfg@gmail.com](mailto:heckelfg@gmail.com) です。

今回の演奏会は2013年10月12日(土)14時開演 深川江戸資料館小劇場